



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 13

2016. 12. 07

～今までを振り返って～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

久しぶりのプラ・ビダです。10月に日本でファシリテーター対象の研修があり、帰国していました。先日またコスタリカに赴任し、現地での業務を再開しました。日本帰国中、現地の活動がどうなるか心配していましたが、セバディージャ村ではワークショップが最終回を迎え、卒業式の際に集落の清掃と展示菜園をするというアクションプランがグループから発表され、早速蚊を減らすための集落の清掃活動が実現しました。雨季真っ盛りで、デング熱とジカ熱が猛威を振るっていた頃です。








サンタリタ村では、かねてから健康づくりとダイエットのため女性達が関心を持っていたエクササイズの実践活動が実現しました。オロティナ市内のジムのインストラクターがボランティアで村に駆けつけ、女性達の「痩せたい」という願いのための一歩を踏み出しました。またカウンターパートの中で今年は本邦研修に参加しなかった、社会事業と保健分野のファシリテーターが2集落に向けて自尊心のワークショップを実施しました。

ファシリテーターも集落も、モチベーションが高まる中、久しぶりにセバディージャ村を訪れました。その日は以前から協力してく



れている青年海外協力隊員が実施するコンポスト（堆肥作成）講習会第 2 回目でした。高倉式というこのコンポストは、家庭から出る生ごみを使って増やせる手軽で経済的な手法です。サンタリタ村でも計 3 回実施し、家庭菜園の動きに繋がっています。セバディージャ村は当初から農業への関心が高く自給用の畑を持っている家庭も多く、コンポストの技術に興味津々でした。

このコンポスト講習会に合わせ、日本での研修で学んだ参加型手法を使って、過去数カ月のセバディージャ村の家庭・グループレベルの計画進捗状況、実施済の活動の振り返りを行いました。

誰によって (家族の名前)	実施した改善活動	どう感じたか	何故そのように感じているか	次にすること
Montero Agüero 家	-家のペンキ塗り -台所のカマドに煙突をつける		-今月には実施する予定があるから -煙突のための缶を入手したから -早く進めたいという意欲があるから	-ペンキを 2 缶入手する -煙突を作る
Alpizur Pérez 家	カマドを改善する		-色を塗り始めたから -缶を入手したから	-カマドに保護ガードを付ける -煙突を作る
Garita 家	家を建てる		助成申請するための書類集めに苦戦しているから	担当機関との交渉
Nuñes Montero 家	家を建てる		土地が平らではなく、まず土地を平らにする必要があるから	担当者との交渉
Abarca 家	カマドを作る		既に新しいカマドを作ったから	煙突を付ける
Nuñes Montero 家	健康を改善する		ようやく病院に行き、検査をしたから	治療を続ける
セバディージャの改善グループ	-グループの団結を高める -メンバー間の助け合い -より正式なグループとなる		清掃活動やグループでお揃いの T シャツを作るなど活動を実現できたから	集落の住民が学べるよう展示用の畑を実施する、家庭菜園の規模を広げる、清掃活動を続ける

当初、家を建てるという計画はなかったのですが、最近になって農村開発庁による貧困家庭への住宅援助申請が始まったようです。興味深いのは、外部援助に頼っている家の建設のみ結果が「まあまあ 😊」になっていることです。一方で、自分たちの力で始め実現したカマド作りや改善は満足度が高く「とても良 🥰 い」になっています。また、特に 1 番目の Monter Agüero 家では妻は鬱気味、夫は読み書きが出来ず当初参加には消極的でした。この家の具体的な改善への意欲が高まっている様子には変化を感じました。6 番目の Abarca 家も、とても大人しい親子で、広大な土地を持ちながら「野菜を作ったら盗まれるので…」などと後ろ向きな姿勢でした。生活改善の活動には必ず時間通りに参加しとて

も楽しみにしているとも話していたので、前向きな動きがあるかと思っていたところのカマド作りでした。

グループの活動としては、各参加者がお金を出し合いグループのお揃いのTシャツが出来ていました。グループとしての活動をするときや訪問があるときに着たりして、グループの団結を高めたいということでした。このTシャツ作りもグループメンバーの一人の家族で裁縫がうまい娘さんが担当し、デザインは絵が得意なその夫が考案したということでした。外部の業者に頼るのではなく、自分たちの得意技を活用して出来た限定Tシャツです。セバディージャ村では次は、学んだコンポストを活用しながらさらに家庭菜園を充実させたい、集落の他の住民の見本になるために展示用畑もしたい、という思いを持っています。また来週以降も、ワークショップを続けさらなる計画策定を続けます。

